

〔海況概要〕

今週の本県近海の表面水温は、16～22℃台を示し、平年並みの水温でした。

〔漁況概要〕

- 中小型まき網——シケの日が多かった。西彼地区では、マアジが1日1統当たり0.4トンの水揚げで、前週の40%（前年を下回った）。五島奈留地区では、マアジが1日1統当たり2トンの水揚げで前週並み（前年並み）。北松南部地区では、マアジなどが1日1統当たり1.5トンの水揚げで、前週並み（前年を上回った）。橘湾地区では、カタクチイワシが1日1統当たり5トンの水揚げ。
- イカ釣——スルメイカは、対馬東岸地区では1日1統当たり20kgの水揚げで、前週の40%（前年を上回った）。壱岐勝本地区では、1日当たり1.5トンの水揚げで、前週の3.9倍（前年を上回った）。ケンサキイカは、対馬東岸地区では1日1統当たり21kgの水揚げで前週並み（前年並み）。壱岐勝本地区では、1日当たり182kgの水揚げで、前週の4倍（前年を上回った）。
- 定置網——対馬西岸地区では、マアジなどが1日1統当たり112kgの水揚げ。対馬東岸地区では、ヒラマサなどが1日1統当たり193kgの水揚げ。
- 一本釣——北松宇久地区では、イサキが1日当たり48kgの水揚げで、前週の59%（前年を下回った）。

〔日本海スルメイカ情報〕

今期（5/14～5/19の6日間）沖合イカ釣り船、船凍船は切揚休漁。赤イカは太平洋漁場向け32隻出漁した。

沿岸イカ釣り（氷蔵船）は、壱岐・対馬及び山口沖～隠岐海峡～鳥取沖～能登半島にかけて出漁した。鳥取県西部（沖合船）5日延29隻、総計1,531箱、1航海最高342箱、平均52.8箱。スルメイカを中心に漁獲、魚体は20～30入り主体。今期は山口沖～隠岐海峡～鳥取沖～能登半島が漁場を形成した、見島周辺、隠岐諸島周辺で40入のスルメイカが増えた。

（漁業情報サービスセンターより）

〔お知らせ〕

長崎県庁ホームページ「地方機関 総合水産試験場」の「漁海況情報」から漁海況週報や漁海況通信をご覧いただけます。

<https://www.pref.nagasaki.jp/section/suisan-shiken/index.html>